

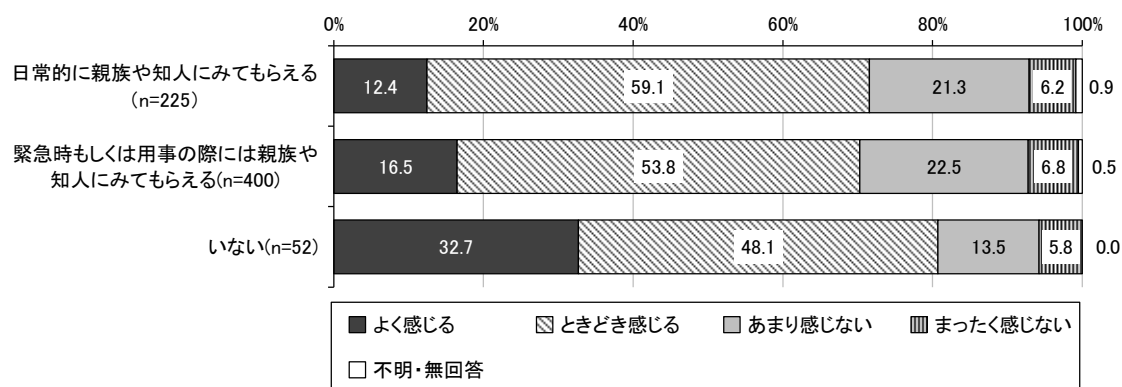
米原市こども計画の策定に係るアンケート結果 からみられる主な課題

1 子育て環境や保護者の就労状況について

○子どもをみてもらえる親族や知人については、「いない」が1割程度で前回調査と比べて増加しています。【就学前保護者問 41 p59】

○〔子育てに不安や負担を感じる〕について、子どもをみてもらえる親族・知人の有無別でみると、「いない」人は負担を感じる割合が高くなっています。

■子育てに不安や負担を感じる【就学前保護者問44×問41 子どもを見てもらえる親族・知人の有無】



○母親の就労状況について、フルタイムが5割程度と前回調査と比べて増加しており、パート・アルバイトの方のフルタイムへの転換希望も4割程度と、母親の就労形態が大きく変化していることがうかがえます。【就学前保護者問 8 p7・問 10 p9】

○育児休業の取得状況について、「取得した」が母親では5割程度、父親では1割程度と前回調査と比べて増加しています。一方で、父親の育児休業を取得していない理由として「育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった」が前回調査と比べて増加していることから、父親の育休については理解が浸透していない現状もうかがえます。【就学前保護者問 27 p34】

○育児休業からの職場復帰について、母親では、子どもの年齢が2歳や3歳のときを希望する方がいる一方で、実際は1歳未満や1歳6か月未満が多くなっており、父親では、1歳6か月未満が多くなっていますが、実際は6か月未満が5割以上となっていることから、父母ともに希望よりも早く職場復帰している現状がうかがえます。【就学前保護者問 30 p39】

○子育てに関する不安や悩み（自分のこと）について、「子育てで疲れること」「自分の時間を十分に持てないこと」がどちらも4割程度と高く、前回調査と比べても増加しています。

【就学前保護者問 45 p62】また、子育てに関する不安や悩み（家庭のこと）について、「教育費など経済的な不安や負担」が5割以上と前回調査から大きく増加しています。【小学生保護者問 30 p113】

家庭の状況や保護者の就労形態が大きく変化していることから、家庭の状況に応じた支援ニーズへ対応するとともに、父親の子育て参加のさらなる促進が必要です。また、頼れる人がいない人や子育て疲れ、悩みを抱える人への支援が必要です。

2 教育・保育事業やサービスの利用について

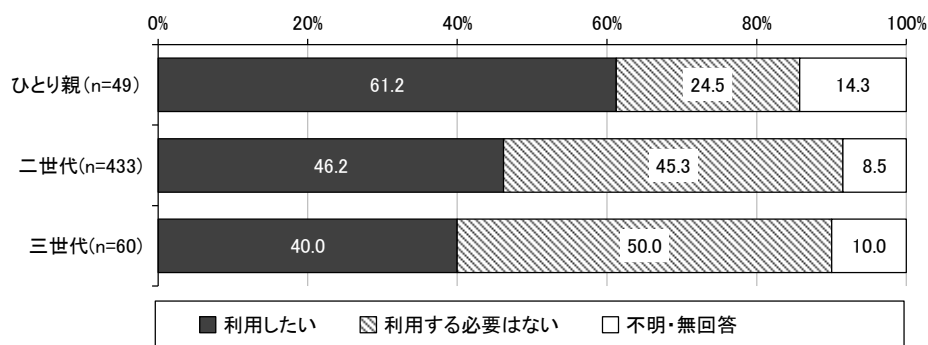
○定期的に利用したい教育・保育事業について、「認定こども園」が8割程度と前回調査と比べて増加し、「保育所」「幼稚園」が減少しています。【就学前保護者問 15 p19】

○子育てに影響すると思われる環境について、「家庭」に次いで「認定こども園」が5割以上と高くなっており、認定こども園が子育てや教育における役割を担うことへの期待が高いことがうかがえます。【就学前保護者問 40 p58】

○一時預かりなどの不定期な事業の利用意向について、「利用したい」が4割以上と前回調査から増加しており、理由としては「私用、リフレッシュ目的」が大きく増加しています。

【就学前保護者問 23①② p28】世帯構成別にみると、ひとり親世帯で高く、三世代世帯では低くなっています。

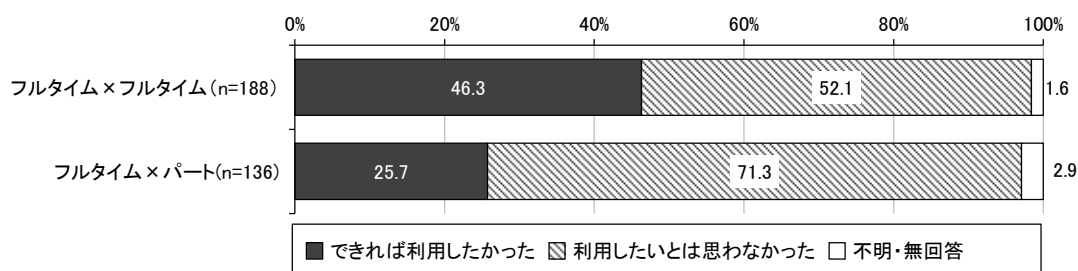
■一時預かり等の利用意向【就学前保護者問 23×世帯構成】



○子どもの病気やケガで保育所等を休んだ際の対応について、「母親が仕事などを休んで子どもをみた」が9割程度となっています。「父親が仕事などを休んで子どもをみた」は4割程度と前回調査から大きく増加しています。【就学前保護者問 19 p22】

○病児・病後児保育の利用意向は、全体で4割程度となっており、父親・母親ともにフルタイムで就労している場合で高くなっています。

■病児・病後児保育の利用意向【就学前保護者問 20×保護者の就労形態】



保護者のリフレッシュのための一時預かりや病児・病後児保育について、核家族世帯や共働き世帯の増加などから今後もニーズが高まることが考えられます。多様な利用ニーズに応じた支援やサービスの確保・提供が必要です。

3 放課後等の子どもの居場所について

○小学校に入ったら放課後に過ごさせたい場所について、低学年では「放課後児童クラブ（学童保育）」が6割程度と最も高く、前回調査と比べても増加しています。【就学前保護者問 32（1） p42】

○小学生の放課後の過ごし方の希望について、「放課後児童クラブ（学童保育）」は、3割で前回調査から増加しています。学年別にみると、「放課後児童クラブ（学童保育）」は小学1年生が5割程度で高く、学年が上がるほど「自宅」や「習い事」が高くなっています。

■放課後の過ごし方〈今後の希望〉【小学生保護者問 12（2）×学年】

	自宅	祖父母宅 や友人（友 だち）・知人 宅	習い事（ス ポーツ塾な ど）	放課後児 童クラブ（学 童保育）	ファミリー・ サポート・ センター	子ども食堂 など民営に よる居場所	その他（学 びあいス テーション、 公園など）	不明・無回 答
全体（n=563）	73.2	21.5	36.4	30.0	4.1	6.2	10.7	2.8
小学1年生（n=78）	56.4	23.1	24.4	51.3	2.6	1.3	3.8	2.6
小学2年生（n=98）	59.2	22.4	32.7	44.9	1.0	3.1	7.1	2.0
小学3年生（n=111）	65.8	19.8	31.5	31.5	1.8	5.4	9.0	3.6
小学4年生（n=78）	79.5	24.4	42.3	30.8	9.0	10.3	20.5	1.3
小学5年生（n=112）	89.3	19.6	42.9	12.5	4.5	8.0	8.0	2.7
小学6年生（n=72）	93.1	20.8	45.8	6.9	5.6	8.3	16.7	4.2

○長期休みの期間について、低学年の間は放課後児童クラブを利用したい割合が、前回調査から増加しています。【小学生保護者問 13③ p89】

○放課後児童クラブの平日の利用時間の希望について、保護者の就労形態別にみると、父親・母親ともにフルタイムで就労している場合では「18時～19時まで」が最も高くなっています。

■放課後児童クラブの平日利用時間〈今後の希望〉【小学生保護者問 12（2）×保護者の就労形態】

	16時まで	16時～17 時まで	17時～18 時まで	18時～19 時まで	19時～20 時まで	不明・無回 答
全体（n=152）	3.3	4.6	40.8	31.6	5.9	13.8
フルタイム×フルタイム（n=91）	4.4	2.2	34.1	42.9	9.9	6.6
フルタイム×パート（n=56）	1.8	8.9	46.4	16.1	0.0	26.8

○子どもの居場所づくりのために力を入れるべき支援について、就学前・小学生ともに「子ども同士が交流できるような支援」が最も高くなっており、前回調査と比較すると「子どもや大人が思い思いに過ごせるような支援」が増加しています。【就学前保護者問 37 p56・小学生保護者問 24 p107】

○自由回答では、放課後に体を動かして遊べる場所や気軽に利用できる図書館等の屋内施設を求める意見があげられています。【小学生保護者自由回答 p240】

低学年では放課後児童クラブの利用意向が増加傾向となっており、今後も受け皿の確保が必要です。また、子どもが気軽に利用でき、安心して放課後を過ごせる居場所づくりも重要となります。

4 子どもの生活状況について

○困っていることや悩んでいることについて、小学生・中学生ともに「特にない」が最も高くなっていますが、中学生では「学校の勉強や成績のこと」「進学や進路のこと」がそれぞれ3割程度と高くなっています。【小5・中2問13 p171】

○相談相手について、自己肯定感（周囲との関係の中で、自分自身を肯定的にとらえる考え方）の視点からみると、自己肯定感が低くなるにつれ、家族や友人、学校の先生に相談する人は少なくなり、相談したくない人が多くなっています。

■相談しようと思う人【小5・中2問14×自己肯定感】

	母親（保護者）	父親（保護者）	きょうだい	祖父母や親せき（おじやおば、いとこなど）	学校の先生	学校の友だち（同級生や先輩、後輩）	学校以外の友だち
全体（n=645）	69.3	38.3	22.8	14.7	32.2	55.7	14.7
自己肯定感：高（n=206）	84.0	59.7	30.6	21.4	44.2	60.7	16.5
自己肯定感：中（n=277）	70.0	34.3	21.3	11.6	30.3	58.1	14.1
自己肯定感：低（n=162）	49.4	17.9	15.4	11.7	20.4	45.1	13.6

	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー	その他の大人（塾や習い事の先生、放課後児童クラブの先生、地域の人など）	インターネット上のSNS（LINEやXなど）などで知り合った人	その他	だれにも相談できない	相談したくない	不明・無回答
全体（n=645）	2.9	3.6	3.1	0.6	3.3	7.3	2.2
自己肯定感：高（n=206）	3.4	2.9	1.9	0.5	1.9	3.4	2.4
自己肯定感：中（n=277）	1.8	4.0	2.5	0.4	1.8	4.7	1.8
自己肯定感：低（n=162）	4.3	3.7	5.6	1.2	7.4	16.7	2.5

※自己肯定感の高低については、小5・中2調査問29について、それぞれ「そう思う」を3点、「どちらかといえばそう思う」を2点、「どちらかといえばそう思わない」を1点、「そう思わない」を0点として、合計が18点以上で高、13～17点で中、12点以下で低としている。

○自己肯定感が低くなるにつれ、学校にいる時間が「楽しい」と回答した人は少なくなっています。家族と学校でのできごとについて話すなど、家族との関わりが多いほど自己肯定感が高い傾向もみられることから、子どもが希望をもって日々を過ごすことができるよう、家庭での保護者との関わりや学校や地域から子どもに自己肯定感を持たせる働きかけを行うことが大切であると考えられます。

■学校にいる時間が楽しいか【小5・中2問19×自己肯定感】

	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	わからない、答えたくない	不明・無回答
全体（n=645）	48.2	38.8	5.6	4.2	3.3	0.0
自己肯定感：高（n=206）	71.8	25.2	0.5	1.9	0.5	0.0
自己肯定感：中（n=277）	41.9	45.8	6.5	2.9	2.9	0.0
自己肯定感：低（n=162）	29.0	43.8	10.5	9.3	7.4	0.0

■自己肯定感×家族で学校でのできごとについての話をする【小5・中2問7E】

	自己肯定感：高	自己肯定感：中	自己肯定感：低
全体(n=643)	31.9	42.9	25.2
ほとんど毎日(n=220)	45.9	40.9	13.2
週に4～5回(n=136)	28.7	41.9	29.4
週に2～3回(n=116)	24.1	51.7	24.1
週に1回程度(n=44)	25.0	47.7	27.3
月に1～2回(n=46)	23.9	32.6	43.5
ほとんどない(n=55)	20.0	45.5	34.5
まったくない(n=26)	15.4	30.8	53.8

○家事や家族のお世話をしている子どもは、小学生で4割程度、中学生で2割程度おり、年下のきょうだいの世話や家事、仕事の手伝いを行っている状況がうかがえます。【小5・中2問16・17 p176】

○お世話をしていることで生活への影響が出ていると考えられる子ども（ヤングケアラーと思われる子ども）は、小学生で9.8%、中学生で1.9%となっており、お世話をしていることで、宿題や勉強をする時間や睡眠が十分に取れない状況にある子どもが一定数いることがうかがえます。

■お世話をしていることでの生活への影響【小5・中2問16・18×学年】

	影響あり	影響なし	お世話をしていない	不明
全体(n=607)	5.8	22.1	68.9	3.3
小学5年生(n=296)	9.8	29.1	57.4	3.7
中学2年生(n=311)	1.9	15.4	79.7	2.9

○居場所について、子ども食堂や勉強を無料でみてくれる場所の利用意向は3割程度となっています。また、居場所を利用したことによる変化として、「友だちが増えた」「ほっとできる時間が増えた」が高くなっています。【小5・中2問31 p185・32 p186】

○家庭での子どもとの関わり方や子どもの体験機会については、全体的に所得段階による大きな差はみられないことから、経済的に厳しい家庭においても子どもに多様な経験をさせたいという意向がうかがえます。学校や地域において多様な経験を持つことができる機会を提供していくことが重要です。【小5・中2保護者問12 p196・13 p198・14 p201】

子どもが将来に希望をもって生活することができるよう、親子の関わりや様々な大人との関わり、多様な経験をもてる機会や場所を提供することが重要です。また、ヤングケアラーや悩みを抱え込みやすい子どもなどに対する支援が必要です。

5 若者の状況について

○悩みごとや心配ごとについて、「お金のこと」が5割以上と最も高くなっています。相談相手について、「誰にも相談できない」「誰にも相談したくない」の合計が1割程度となっています。【15～39 歳問 37 p152・問 38 p153】

○相談しやすい人や場所については、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が5割程度と最も高くなっています。【15～39 歳問 39 p154】

○人とのつきあいが無いと感じることがある人は5割程度、他の人たちから孤立していると感じることがある人は4割程度となっています。【15～39 歳問 14（1） p130】

○居場所とを感じる場所について、「自分の部屋」「家庭」に次いで、「インターネット空間」が高くなっています。【15～39 歳問 12 p128】また、子ども・若者のために必要な取り組みについて、「お金の心配をすることなく学べるように支援する」に次いで「自由に過ごせる場所やほっとできる居場所を増やす」が3割程度となっており、インターネット空間も含め、自宅以外の居場所が求められていることがうかがえます。【15～39 歳問 48 p161】

○結婚についての考えを暮らし向きの程度別にみると、暮らし向きが良いと感じている人ほど結婚に対して前向きな回答が高いことに比べ、暮らし向きが良くないと感じている人は、「家事や育児が大変」「自由に使えるお金が少なくなる」などの回答が高い傾向がみられます。

■結婚についての考え【15～39 歳問 24×問 6 暮らし向き】

	精神的な 安らぎの場 が得られる	好きな人と ずっと一緒 に暮らせる	経済的に 安定する	生活が便 利になる	親を安心さ せることが できる	自分の子ど もや家族を 持てる	親から独立 してひとり 立ちができ る	家事や育 児が大変
全体 (n=288)	44.1	50.3	31.9	12.5	41.0	68.1	23.6	49.7
上 (n=11)	45.5	63.6	45.5	18.2	45.5	63.6	9.1	27.3
中の上 (n=48)	50.0	56.3	45.8	22.9	47.9	68.8	29.2	39.6
中の中 (n=155)	46.5	53.5	28.4	9.0	40.0	71.0	24.5	51.6
中の下 (n=63)	38.1	41.3	30.2	14.3	36.5	65.1	20.6	55.6
下 (n=11)	18.2	18.2	18.2	0.0	45.5	45.5	18.2	54.5

	責任や義 務が発生 する	自分の時 間や自由 な行動が 制約される	自由に使 えるお金が 少なくなる	自分や相 手の親せ きづきあい などが増える	その他	わからな い、考えて いない	不明・無回 答
全体 (n=288)	57.3	52.1	43.1	44.8	1.4	5.6	0.7
上 (n=11)	63.6	45.5	27.3	36.4	0.0	9.1	0.0
中の上 (n=48)	54.2	43.8	31.3	35.4	0.0	8.3	0.0
中の中 (n=155)	56.1	49.0	41.3	43.9	1.3	4.5	0.6
中の下 (n=63)	61.9	66.7	55.6	55.6	1.6	4.8	1.6
下 (n=11)	54.5	54.5	63.6	45.5	9.1	9.1	0.0

○子どもを持つことについての考えは、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が6割程度と最も高い一方で、「子育てや教育など、経済的な負担が増える」が5割程度と高くなっています。【15～39 歳問 26 p142】

○米原市行政への関心について、関心が『ある』人は4割程度で、関心が『ない』人の割合を下回っています。また、米原市への愛着が強いほど関心のある人は多くなっています。

■米原市行政への関心【15～39 歳問 45×問 43 米原市への愛着】

	非常に 関心がある	どちらか といえば関 心がある	どちらか といえば関 心がない	関心がない	わからない	不明・無回 答
全体(n=285)	8.8	35.8	29.8	17.9	7.4	0.4
好きである(n=92)	16.3	43.5	23.9	7.6	7.6	1.1
どちらかといえば好きである(n=131)	5.3	39.7	32.1	16.0	6.9	0.0
どちらかといえば好きでない(n=19)	10.5	26.3	42.1	21.1	0.0	0.0
好きではない(n=15)	0.0	13.3	33.3	53.3	0.0	0.0
わからない(n=28)	3.6	10.7	28.6	39.3	17.9	0.0

○米原市が好きな理由として、環境面では、自然環境に恵まれていることや治安が良いことが多くなっています。【15～39 歳問 44 p158】

若者が抱える課題に対して、同じ課題を抱える人同士の交流機会や居場所の創出により、若者が孤立しないよう取り組むことが必要です。結婚や子育てにあたって経済的な不安を感じている人が多いことから、前向きに捉えることができるようなサポート、情報発信が重要となります。

6 自由回答意見について 【p240～】

○就学前保護者・小学生保護者では、子どもの遊び場や施設の充実についての意見が多くあがっており、屋内で体を動かして遊べる場所や放課後等に利用できる施設が求められています。

○子どもの居場所について、学校の近くに学習支援や遊べる場所、児童館や図書館などを求める意見があがっており、子どもたちが安心して気軽に利用できる居場所が求められています。また、中学生では部活動の選択肢が少なくなっていることも指摘されています。

○経済的支援について、子育て世帯では、給食費の無償化や第一子からの支援、所得制限等によらない支援を求める意見があがっています。

○相談について、小学生や中学生になると、保護者が相談できる場所がないという意見があがっており、学校の先生以外に相談できる場所が必要となっています。

○15 歳から 39 歳市民では、駅前を充実してほしいという意見や若者が遊ぶところが少ないという意見があがっています。

○小学5年生・中学2年生では、スマートフォンの利用について、保護者からは使いすぎについてや子どもに持たせたときが心配という意見があり、子どもからも利用時間を減らしたいという意見があがっており、保護者・子どもともに問題意識を抱えていることがうかがえます。